

館山日東バス 千倉線の再編について

◆ 内容確認・協議いただきたい事項

- ・千倉線と白浜千倉線の統合について
- ・ダイヤ改正後の運行ダイヤについて

1. 千倉線の再編に至った経緯

- ・今年度に入り、館山日東バス、南房総市、館山市の三者で、館山日東バスが運行する千倉線、白浜千倉線の再編に関する協議が始まる。
※前回（7月30日開催）の会議にて、本件について報告済。
- ・7月31日付けで、館山日東バスから南房総市に対し、白浜千倉線及び白浜亀田線*を平成31年3月31日をもって廃止したい旨の申し入れがなされる。
*白浜亀田線：安房白浜～亀田病院を結ぶ路線 平日・土曜に一日2往復運行。
- ・廃止の申し入れを受け、千倉線と白浜千倉線の統合等に関し三者で検討を行う。
- ・11月29日に開催された南房総市の地域公共交通会議において、以下の事項について承認された。
 - ①白浜千倉線は、廃止後も南房総市が赤字部分を補填する廃止代替バスとして運行を継続する
 - ②千倉地区の経路変更や千倉線との統合を行う
 - ③当該路線のダイヤ改正について検討を進める
 - ④白浜亀田線は廃止する
- ・上記決定を受け、三者で運行ダイヤ等に関する協議を進め、最終案が確定したところ。

2. 館山市としての考え方

- ・館山市としては、館山日東バスの経営合理化や、館山市及び南房総市民の利便性向上の観点から、千倉線と白浜千倉線の統合やダイヤ改正を予定どおり進めていくことに異論はない。
- ・前回会議で承認されたとおり、千倉線については運行を当面継続し、利用状況や公共交通網形成計画の内容等により、運行形態の見直しを引き続き検討していく。

3. 再編の概要

- ・館山駅から安房地域医療センター、九重駅前を通り、千倉・平館車庫に向かう千倉線と、千倉駅から白間津を通り、安房白浜に向かう白浜千倉線を一本化し、館山駅から千倉駅経由、安房白浜までの直通系統にする。
- ・統合により、千倉地区で重複して運行している区間（千倉駅入口～平館車庫間）を解消し、運行の効率化を図る。
- ・鉄道のダイヤ改正にあわせ、3月16日（土）に路線統合・ダイヤ改正を行う。
- ・統合後も、館山市・南房総市の2市が赤字部分を補填する。（負担割合は、それぞれの市の走行距離で按分）
- ・再編後の便数等は以下のとおり。（千倉線の便数は変更なし、ルートは千倉地区で一部変更有）

4. 現行と再編（一本化）後の比較

	現行	再編後
運行本数	1日5往復	【変更なし】1日5往復
運行時刻		【変更有】詳細は別紙時刻表を参照
ルート	館山駅～平館車庫間	【変更有】館山駅～千倉駅～安房白浜間 (館山市内区間は変更なし)
運賃		館山市内区間は変更なし

館山日東バス 千倉線の再編について

5. 再編によるメリット

- ・通勤、通学に利用できる時間帯の便の設定。（7:41館山駅着/18:20館山駅発の設定）
- ・白浜方面から医療センター等に乗り換えなくアクセスができるようになる。

6. 再編によるデメリット

- ・運行を需要のある朝～午前に集中させるため、午後の便数が従前より少なくなる。
※主な利用者である高齢者の通院や買物は午前に集中しており、午後は利用が減る傾向がある。
- ※館山駅～医療センター～稲交差点は館山鴨川線が並走しており、あわせて利用可能である。

7. 再編後の補助金について

- ・館山日東バスの試算では、館山市の補助金額は再編前より減少すると予想されている。

○再編後の補助金予測値及び再編前の補助金実績値（単位：千円）

	再編後 予測値	再編後 走行距離	再編後 距離按分	再編前 実績値		再編前 走行距離	再編前 距離按分
	H31			H30	H29		
館山市	2,735	7.94km	34.4%	3,066	3,120	7.94km	56.1%
南房総市	5,215	15.15km	65.6%	2,400	2,442	6.22km	43.9%

○再編後の経常損失予測及び再編前の経常損失額（単位：千円）

	再編後	再編前		
	H31予測	H30実績	H29実績	
千倉線	△ 7,950	△ 5,466	△ 5,562	* H31予測の千倉線は、館山駅～安房白浜直通5往復分
白浜千倉線	△ 5,853	△ 10,427	△ 8,800	* H31予測の白浜千倉線は、千倉駅～安房白浜6往復分
合計	△ 13,803	△ 15,893	△ 14,362	

※再編後、利用者数等がどのように推移するか、予測できない部分もあるが、現状では再編により行政側の財政負担も軽減できる見込みである。